

# 大韓民国最南端の島：馬羅島

古田 悦造\*

キーワード：大韓民国，最南端，馬羅島

## I はじめに

ソウルオリンピックが開催された1988年に初めて韓国を訪問して以来、短い日数ながら、毎年2～3回は渡韓してきた。殊に2001年6月～12月の期間には、当時の文部省の在外研究員として長期間釜山の新羅大学校（旧釜山女子大学校）に、滞在する機会を得ていた。しかし、韓国の最南端位置する馬羅島には行く機会を逸していた。

2016年4月中旬、釜山の釜山外国語大学校で大韓日語日文学会が開催され、発表の機会を得て再度韓国を訪れることとなった。この機会に是非とも馬羅島に行ってみたいと思い、長年の希望を果たすことができた。

本報告は、その訪問で得た馬羅島の様相を紹介するものである。

## II 馬羅島の地理的位置

馬羅島への公共交通機関を利用する場合は、濟州島（行政的には濟州特別自治道）の中心都市である濟州市内から市外バスで琴瑟浦まで行き、そこからは定期船で馬羅島に行くことになる（写真1）。訪問した2016年4月18日の濟州島・馬羅島間の定期船の運航は、濟州島から馬羅島へは11時10分発、12時30分発、13時50分発そして15時10分発の4便、馬羅島から濟州島へ



写真1 加波島・馬羅島の定期連絡船発券場

は10時30分発、13時10分発、14時30分発そして15時50分発の4便が運航していた。このため、馬羅島への渡航は、原則として馬羅島に上陸した便の次の便で離島することとなっている。しかし、今回は濟州大学校副総長・教育大学長の鄭光中氏の配慮によって「馬羅島調査」ということで、11時10分発の便で馬羅島に行き、濟州島へは13時10分発ではなく、14時30分発の便で帰島することができ、時間的にかなり余裕のある訪島となった（写真2）。運賃は、濟州島民以外の乗船客が往復16,000ウォンで、これに海上公園への入場料の1,000ウォンが加算される（韓国の年齢で19歳未満（日本の数え年）の青少年の往復運賃は同一の16,000ウォン、海上公園入場料は800ウォンで、子供の運賃と入場料はそれぞれ半額）。濟州島民の乗船客は往復14,000

\* 東京学芸大学・名誉教授

ウォンで、済州島内の多くの観光地での入場料・入館料など料金は島民に若干の優遇処置がされている。

馬羅島は、済州特別自治道に属する64の島嶼(有人島8島, 無人島55島)の内の1つで、面積は0.3km<sup>2</sup> (90,272坪)に過ぎない。面積的には8島の有人島の中で、済州島の北西海上に位置する秋子群島の秋浦島(0.1km<sup>2</sup>)に次いで小さな島である。

韓国最南端の馬羅島は、地理的には東経126度16分, 北緯33度6分に位置し、韓国の領土の最南端にあたる(行政安全部編, 2011, p.1901)。より正確には、馬羅島の東海岸の灯台の北部に設置された三角点には、東経126度16分10秒, 北緯33度7分3秒と表記されている(写真3)。北緯33度は、東京都でいえば八丈島の位置に相当する。

### Ⅲ 馬羅島の自然地理的特性

馬羅島は、済州島の南海上の小さな島であるが、地理的位置の重要性からみれば、周辺海域を航行する大型船舶はもちろん一般の漁船にも必要性が高い島である。また、馬羅島は定期連絡船が出港する西帰浦市大静邑孛瑟浦から約11km(写真4)、隣接する加波島5.5kmの南海上に位置している。

島の形態は南北に長い楕円形を示し、東西500m, 南北の距離が1.3kmである。馬羅島は、全体的に平坦な地形であるが、細かくみれば島の東側から西側へ非常に緩慢ながらも低くなっている特徴がみられる。島内の東海岸のかなり高い所には馬羅島の有人灯台が位置している。馬羅島の海岸には、大小の海食洞と海食崖が発達している。海食崖は島の北東側に多く、その高さは最大26mに達している(写真5)。海食洞は、海食崖が発達している下部に分布するが、北東側と北西側の海食崖の下部に、高さ12

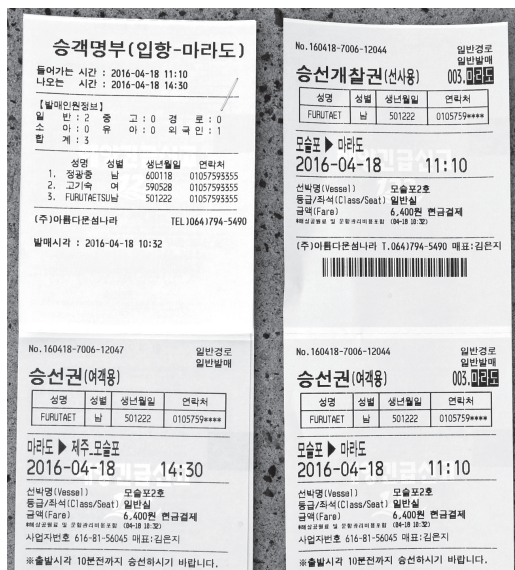


写真2 馬羅島への乗船券(右側:往路、左側:復路)



写真3 馬羅島北東部にある三角点



写真4 馬羅島への定期連絡船(済州島の発着場)





写真5 馬羅島の定期連絡船発着場付近の海食崖

～15m、幅15～20mの大型な海食洞がみられる（写真6）。また、島の北東側と南西側の海岸には波食棚が発達し、特に南西側の海岸の波食棚は内陸で隆起した断面に良く現れている。

#### IV 馬羅島の人文地理的特性

馬羅島は、2000年7月19日に天然記念物第423号および「馬羅島天然保護区域」に指定された。その文化財の分類は、「自然遺産」、「天然保護区域」、「文化および自然結合性」、「領土的象徴性」で、保護区域の指定面積は、5,741,597m<sup>2</sup>である（写真7）。

馬羅島へ人々が入島し、居住し始めたのは1883年（高宗20年）からである。最初に入島した世帯は、慶州金氏・金海金氏の金氏や羅州羅氏、清州韓氏などの8世帯であった。彼らの子孫の居住地は、ソウル特別市の1世帯を除いて、すべて済州島内の西帰浦市大静邑である。なお、馬羅島の北に位置する加波島への入島は1842年とされ、馬羅島の入島の約40年前である。

馬羅島の人口は、2011年12月の時点で54世帯、104名（男性60名、女性44名）に過ぎず、西帰浦市大静邑の23の村の中では最も小さい集落である。2003年までの馬羅島の人口は1991年の63名を最低として、100名以下であったが2005年以降は100名台に達していた。しかし、馬羅島には、加波初等学校馬羅分校が設置されていた

が、児童数の減少からか訪問時には閉校されていた（写真8）。馬羅島の着船場から南の大韓民国最南端の地点へ通ずる西海岸沿いの道路には、食堂や土産物店・民宿があり、観光客への便を図っている（写真9）。大韓民国最南端の地点には記念碑があり（写真10）、記念碑の南には海岸に下りられる波食棚が発達し（写真



写真6 馬羅島の定期連絡船発着場付近の海食洞



写真7 馬羅島の天然保護区域を示す案内板



写真8 現在は閉校していた加波初等学校馬羅島分教場



写真9 馬羅島西海岸の村落景観（発着場から最南端に至る道）



写真10 大韓民国最南端の碑（人物は筆者）



写真11 馬羅島南端の波食棚

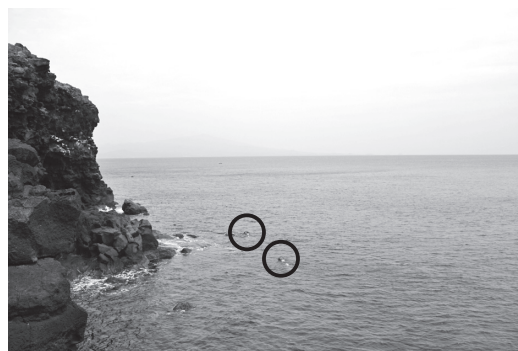


写真12 馬羅島の南端での潜水漁業  
（写真内の○印に2人の海女）

11)、訪問時には海食崖下で潜水業を行っている海女も存在していた（写真12）。

馬羅島の女性達は、多くが潜水漁業を兼業して生活している。勿論、最近では食堂や民宿などを目的として商売している婦人達も生じている。馬羅島には、定期連絡船などが着岸する他には、一般漁船が停泊できる港がない。このため、馬羅島内で船を持って漁業活動を行うのは1世帯に過ぎない。馬羅島の海女は、2013年現在で10名と減少している状況である。この中で8名は、常時潜水漁業に従事しているものの、2名は高齢で時折従事している海女である。また、10名中で最年少の海女は36才で、最高齢者は87才である。しかし、1970年代までは35～36名が、潜水漁業に従事していた状況であった。

馬羅島の土地利用は、2007年現在で林野が250,453m<sup>2</sup>（84.1%）、宅地が27,852m<sup>2</sup>（9.3%）、分校用地が7,721m<sup>2</sup>（2.6%）、その他で11,901m<sup>2</sup>（4.0%）となっており、島の大部分は林野地となっている。島の北部の地区で墓地が2ヶ所みられたが（写真13）、現在は保護区域に指定されているため、墓地の新規設置は禁止されているようである。



写真13 馬羅島内北部にあった墓地

## V おわりに

2002年のサッカーのワールドカップの日韓共同開催や、「冬のソナタ（韓国名は冬の演歌）」をはじめとするいわゆる「韓ドラ」の流行などで、ソウルや釜山を訪れた方も多くなった。「韓ドラ」のロケ地として多くのドラマの撮影地である済州島へも足を運ばれた方も多い。実

際、訪問時にも中国からの観光客も多く見受けた。済州特別自治道に属する島嶼は、64にも及んでいる。今回訪問した馬羅島のみならず、済州島の東海上にある牛島も交通の便が比較的良好な島である。済州島に行かれた折には、是非一度行って見ては如何。

今回の馬羅島訪問に際しては、済州大学校副総長・教育大学長の鄭光中氏に大変お世話になった。感謝を申し上げる。

## 参考文献

- 行政安全部編（2011）：『大韓民国島嶼白書』（韓国文）行政安全部，2002p.
- 鄭光中（2013）：馬羅島の地理的環境と地域環境の造成方案（韓国文），韓国写真地理学会誌，23-2，pp.1-20.

## **Mara-Do: The Southern Island in the Republic of Korea**

**FURUTA Etsuzo\***

**Keywords** : Mara-Do, the Republic of Korea

\*Tokyo Gakugei University, honorary professor